

2020年6月30日

**鷺沼雨水調整池工事現場視察 議会総務産業委所管事務調査**

令和5年の供用開始を計画している鷺沼排水区5号調整池整備工事の現場を視察しました。令和2年度末に工事の進捗率は73%が予定されています。

この工事は、都市化が進むこの地域は近年の集中豪雨により浸水被害が多発していることから、柴田町と共同で平成16年度から計画策定し、平成23年度から整備が進められています。



2020年6月29日

**放射能汚染廃棄物焼却中止求める8,083名の署名を提出**

放射能の大気汚染を招く仙南クリーンセンターにおける放射能汚染農業系廃棄物の焼却に反対する大河原の会(代表:長谷川進、写真中央)は本日、8,083名(町民6,254名、及び、町外から本町を訪問された方1,829名)の署名を添え、齋大河原町長に焼却中止を申し入れました。

町民6,254名は、有権者総数の30%超に相当します。

私は、お会いしお願いした方の7割以上の方から署名をいただくことができました。

仙南クリーンセンターから6km圏内に全住民が居住しており、焼却による放射能の影響を最も大きく受ける本町の皆様の不安は大きいことを物語っています。

しかし、町長は要旨「焼却の実施主体の仙南広域(行政事務組合)に報告する。焼却に関する私の見解は変わらず、予定通り続ける」と述べ、署名に込められた民意は尊重されませんでした。

正式回答は7月20日の予定です。

現在、昨年の台風19号等による災害ごみの焼却が優先され、放射能汚染廃棄物の焼却は中断中です。しかし、災害ごみの焼却が予定より早く終了する見込みで、来年早々、汚染廃焼却が再開される予定です。



2020年6月9日

**第13回目の一般質問を行う**

今回は大綱1点、本年4月からスタートした第2期創生総合戦略について質問しました。本来、このような重要な戦略（計画）は、議会に事前に説明すべきところですが、議会に初めて説明があったのは、6月3日、事後報告となりました。議会が無視され、重要計画に対する議会の監視機能が低下しています。

議会無視のほか、内容的には昨年スタートした第6次長期総合計画（10ヶ年）のビジョンに欠けるこの計画の一部をまとめたものに過ぎません。

とくに、昨年の台風19号及びCOVID19（新型コロナウイルス）の大きな禍の経験に鑑みて危機管理対策の強化が大きな問題となっていることから、本総合戦略の最重要プロジェクトとして危機管理対策を掲げるべきとの提言を行ったものの、答弁は、従来から掲げている自主防災組織、防災・減災に言及するにとどまりました。このほか、私が町長時代に策定した第1期創生総合戦略の第1番目の重要プロジェクトに掲げた企業誘致は、低位に位置付けられている。

また、今回、国が新たに重要指針として示した、「稼ぐ地域」、「SDGs＝持続可能な開発目標」「Society5.0＝先端技術の社会生活への活用」を反映し、例えば、町民所得向上、未来都市の追及、先端技術を導入する団体への支援などの新たな政策が見られず、全く新味のないものとなっています。これでは戦略とは呼べません。

戦略もロードマップもなく、重点プロジェクトを掲げずでは、創生（＝発展）を期待することはできません。

計画の重要性の認識に欠けた重要文書ができた、と言わざるを得ません。

